

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町 1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
<毎週火曜日発行>



自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

本号外は、木村てつやさん、ながの春信さんの活動を集めます。

自由民主党千葉県第4選挙区支部長

木村 てつやさんのプロフィール

- 昭和44年 船橋市行田町生まれ
- 平成10年 田村 元衆院議長の下で秘書として政治を学ぶ
- 平成11年 船橋市議選 初当選
- 平成15年 船橋市議選 2期目当選 自民党船橋支部青年局長
- 平成19年 船橋市議選 3期目当選 予算・決算委員会委員長
- 平成23年 千葉県議選 初当選
- 平成26年 第47回衆議院議員選挙 落選
- 平成29年 第48回衆議院議員選挙 比例南関東ブロックから初当選
- 座右の銘:「志あれば意これなる」
- 趣味: 釣り、蕎麦屋巡り、自転車、読書、野球、スキー、旅行

- | | |
|--|----------------------|
| ●厚生労働委員会 委員 | ●決算行政監視委員会 委員 |
| ●北朝鮮による拉致問題等に関する委員会 委員 | |
| ●千葉県第4選挙区支部 支部長 | ●厚生労働部会 副部長 |
| ●データヘルス特命委員会 データに基づく科学的介護栄養等・ワーキンググループメンバー | |
| ●雇用問題調査会 就職氷河期世代支援プロジェクトチームメンバー | |
| ●厚生関係団体委員会 副委員長 | ●国会対策委員会 委員 |
| ●船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会 相談役代表 | |
| ●船橋憲法改正推進市民の会 共同代表 | |
| ●法政大学大学院政策科学研究所 特任研究員 | |
| ●日本地方政治学会 理事 | ●日本政治法律学会 理事 |
| ●船橋市テニス協会 会長 | ●船橋市グラウンドゴルフ協会 会長 |
| ●船橋市バドミントン協会 会長 | ●IBA少年野球国際交流協会船橋支部会長 |
| ●空手道顧問 相談役 | ●船橋市柔道連盟 顧問 など |



木村てつや事務所 メール: info@tetsuya-kimura.com

船橋事務所

〒273-0011
千葉県船橋市湊町 1-2-21-201
TEL: 047-433-3088
FAX: 047-498-9155

国会事務所

〒100-8982
東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館312号
TEL: 03-3508-7062
FAX: 03-3508-3039

木村てつやさん

自由民主党千葉県船橋市第14支部長

ながの 春信さんのプロフィール

船橋市議会 自由民主党
千葉県自衛隊協力会連合会青年部会 理事

- 1期目 常任委員会: 市民環境経済委員会 副委員長
- 2期目 常任委員会: 建設委員会 副委員長

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| ●公益社団法人千葉青年会議所OB | |
| ●船橋市PTA連合会 副会長(平成26年度) | |
| ●船橋市立前原小学校PTA会長(平成25・26年度) | |
| ●明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 公共政策学修士 | |
| ●日本大学 法学部政治経済学科 | ●日本大学習志野高等学校 |
| ●船橋市立二宮小学校・二宮中学校 | ●社会福祉法人長春会 たちばな保育園(前園長) |
| ●一般財団法人長春会 障害者就労継続支援事業B型(前理事長) | |
| ●船橋市消防団第13分団2班 団員 | ●船橋市前原商店会 常任理事 |
| ●社会福祉士 | ●一級建築施工管理技士 |
| ●介護福祉士 | ●一級土木施工管理技士 |
| ●社会福祉主事 | ●一級管工事施工管理技士 |
| ●二級ヘルパー | ●二級建築士 |
| ●知的障害者ガイドヘルパー | ●日本傳天心流空手道 二段 |
| ●知的障害援助専門員 | |



ご意見・ご要望、市の施策に対するご質問をお寄せください!

議会や委員会では取り上げるべき事項がありましたら、お気軽にご相談ください。議会・委員会での質問や要望は市の事業に係るものとさせていただきます。
その他、国や県に対するご要望・陳情も、お寄せください。

FAX: 047-474-4719
Email: harunobu@choshunkai.jp

※必ずお名前とご連絡先をご記入ください。

長野春信 検索

<http://choshunkai.jp/> 携帯からもアクセスできます!

ながの春信 政務事務所
TEL: 047-474-4718

〒274-0825
船橋市前原西2-21-13 長野ビル2階

町会・自治会等と連携し、要望の収集や政策立案、広報、ボランティアなど、精力的に活動しております。

地元 前原・津田沼 から
パワフルに発信します!!

ながの春信さん

木村てつやさんは船橋市民の毎日の暮らしと大切な生命・財産を守ります。

船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会の活動

平成31年2月27日 船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会 発足

3月8日 国への要望活動を実施

令和元年6月15日 第1回シンポジウム開催

令和2年2月11日 第2回シンポジウム開催で予算獲得へ一致団結

4月8日 老朽化の進む海岸保全施設の現地視察会およびミーティングを開催

9月6日 石井啓一国土大臣(当時)・菅義偉官房長官(当時)に要望書を提出



船橋地区海岸保全施設の耐震対策・老朽化対策の事業化に向けた調査が始まります！

令和2年度 4,800万円の調査費を獲得

水門・排水機場や護岸など、船橋地区の海岸保全施設は整備から約50年が経過し、老朽化が進行。海岸保全施設の背景には海拔ゼロメートル地帯を含む区域に市役所などの行政機関や子供たちの通う学校、そして多数の企業が立地し、さらに住宅地が密集しています。

今後想定される高潮や大規模地震から効率的・効果的に市民の暮らしを守るため、一刻も早い対策が必要です。しかし、例えば海老川水門については1年に200日以上稼働させながらの大変難しい工事となり、高い技術力が求められます。そこで、木村てつやさんは、国の技術力を活用できる直轄事業化の必要性を、強く訴えています。

事業化への大きな大きな一歩

この度、令和2年度本予算で直轄事業化に向けた4,800万円の調査費を獲得。まずはボーリングなどの土質調査を開始します。今後、さらなる調査が進められ、環境に与える影響や災害発生状況なども含めた多面的な評価を実施し、「事業の必要性」が確認された後「事業化の決定」と進められていきます。

また、「日の出排水機場」の老朽化対策として、令和3年度完成目標で総事業費4億円の補助事業が採択され、本年度は2.2億円の事業費を獲得。また千葉県全体には防災・安全交付金として、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」など1億4,500万円の予算の配分がされました。

これもひとえに、船橋市民の皆さまと市の一致結束した活動のたまものであります。

木村てつやさんは、今後も市民の皆さまからいただいたご信任に応えるべく、また寄せられた皆さまの声を着実に実行していけるよう、一層努力していくことをお約束いたします。



水門の老朽化状況

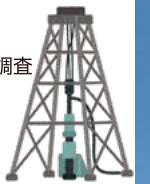


護岸などの老朽化状況



事業化までのスケジュール

事業化に向けた調査
(1~2年間程度)
現地調査
・老朽化調査
・測量
・土質・環境調査
施工検討



地元での合意形成
シンポジウムの
開催



予算要求、事業評価
国への
要望活動



新規事業化、
現地着手
令和3~4年頃を
目指します



ながの春信さんは町会・自治会と共に歩み地域福祉の向上を目指しています。

■ 新京成電鉄線新津田沼駅～前原駅間立体化

前原自治連合協議会より平成28年1月4日に「新京成電鉄線 新津田沼駅～前原駅間 立体化等に関する陳情」が船橋市議会へ提出されました。

この陳情は国道296号線の慢性的な交通渋滞解消、県道69号線の混雑緩和、児童生徒の通学の安全確保が目的であり、船橋市議会においても全会派一致で可決されました。

3年半が経ち、その間に習志野市側新津田沼駅の再開発が進展するなど、立体化などに当たり状況の変化が起きています。

斉藤守県議は県において、ながの春信さんは市において一般質問を行い、また委員会を通じて、令和元年7月1日からは木村てつやさんを筆頭に、前原自治連合協議会の皆さまと、国土交通省都市局の担当者間で協議を重ねています。

船橋市、習志野市の両市にまたがる大規模事業となります。ながのさんは千葉県を筆頭に鉄道事業者と共に丁寧に協議を重ねていく方針です。



■ 木村てつやさんを応援する女性会「ひまわり会」

ながの春信市議、滝口ひろし市議、浅野賢也市議の女性後援会合同会「ひまわり会」が発足しました。

党本部で研修会を行い、来賓として菅義偉官房長官(当時)、小泉進次郎副幹事長(当時)にご講演いただきました。

『日本のため。船橋のために』全力で木村てつやさんとしてっかりタッグを組んで取り組んでまいります!!



■ 千葉県自衛隊協力会連合会青年部会 理事



ながの春信さんは千葉県自衛隊協力会連合会青年部会の理事として、自衛隊の活動支援をしています。また、研修・視察などに参加し自衛隊と市民との相互理解を深めるための取り組みもしています。